



つきみ お月見と「月見だんご」

秋は、空がすみわたり月が美しく見えることから、「十五夜（今年は9月21日）」と「十三夜（今年は10月18日）」には「お月見」をします。「お月見」では、美しい月をながめながら、無事に作物をしゅうかくできたことへのかんしゃの気持ちをこめて、「月見だんご」などをおそなえします。

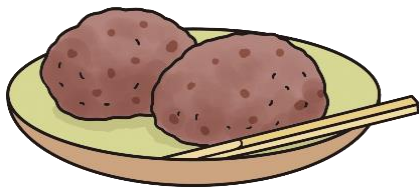
「月見だんご」は、満月に見立てた丸い形のを、よく見かけます。だんごの数は、「十五夜」では15こ、「十三夜」では13こ、また、その年の満月の回数にあわせて、12こや13こにするなど、ちいきによってさまざまです。



自然の美しさを楽しみ、自然のめぐみにかんしゃする心を、大切に受けついでいきたいですね。



「おひがん」と「おはぎ」



「おひがん」には、ごせんぞ様に「おはぎ」を、おそなえする風習があります。

「おはぎ」は、もち米やうるち米などをたき、軽くついて小さく丸め、あんこなどをまぶしたものです。「ぼたもち」ともいいます。

「おはぎ」に使われるあんこの材料あずきの赤い色には、「悪いことを追いはらう力がある」と、されていました。そのことから、ごせんぞ様の幸せを願い、おそなえするようになったそうです。

